

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	もも太郎さん喜多方の介護理念を共有するため、毎朝ミーティング時に出勤職員全員で唱和し、それから仕事に取り組むようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	利用者の方の散歩時、地域の方にお互いに声掛けあったり、近所の知人宅にうかがったりしている。又、当施設の畑作業のお手伝いをさせていただいたり、地域の方と交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の際は地域の方に声掛け、挨拶をし交流を深めている。当施設は地域の方々に育てて頂く旨のご理解とご協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	会議時、事業所の事故報告、利用状況、活動内容等を報告し、推進委員の方から意見・質問・要望を吸い上げ、活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設内の事故報告については、速やかに報告をするとともに、市町村の各担当の職員の方と話し合いの場を作ったり、レクリエーションに参加いただくなど当事業所の取り組みや現状を理解していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で勉強会をするとともに、関係機関の研修に参加するなど理解を深める取り組みを実施している。又身体拘束委員会を発足し、担当職員が定期的に勉強会を実施したり、資料の回覧を行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で勉強会をするとともに、関係機関の研修に参加するなど理解を深める取り組みを実施している。虐待防止委員会を発足し、担当職員が定期的に勉強会を実施したり、資料の回覧を行ったりしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明はもちろんのこと、事前に施設を見学していただいた際に、不安や疑問がないよう家族の方が納得のいくよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアにご家族の方のご意見・ご要望BOXを設置し、施設運営に反映できるよう、取り組みを行っている。 家族の方が訪問された時に直接お話を聞いたりもしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	週1回各ユニットごとのミーティングを行い、職員同士での意見を出し合っている。また、月に1回の職員会議の際にも、利用者、職員ともどものより良き環境作りができるような話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者研修、実践者研修等については、経験年数及び勤務状況から率先的に参加いただき、勉強をしていただくと共に、資格を取得していただいている。又職員個人のケアマネージャー・介護福祉士等の資格取得への金銭的な援助も行っている。能力給については、現在本部にて懸案事項となっており、実施予定となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での、運営推進委員会・教育委員会・問題委員会に施設の代表として定期的に参加するとともに、職員会議時の復命にて、全職員の共通の意識統一を図っている。又、新しい社員の教育には、プリセプター方式を導入し、手厚く指導体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会の研修に参加し学習をするとともに、会議等での共通の悩みや、疑問等について情報を共有し合ったりしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や心配事がある利用者様には、1対1でゆっくり話し合いができる場所と時間を設け、本人が納得・安心できるまで対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日常生活内容についてはもちろんのこと、特に希望すること、心配事などを聞く様になっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望については、利用者様の状況により、極力応ずるようにすると共に、出来ない事だけでなく、出来る事の見極めに注意するとともに、残存能力の機能維持に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援させていただくという、基本的な姿勢を忘れることなく、日常生活の中で洗濯・掃除・炊事と利用者の方が出来るところは職員と一緒にやって行うように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院後の報告、容態の変化等については、小まめにご家族の方に報告をすとともに、家族の方の参加型による支援を重視し、利用者様をご家族と職員で共に支えあう体制作りを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	趣味の継続、行きなれた美容室、近所への訪問、行きなれた喫茶店、図書館通いなど馴染みの環境が途切れないよう配慮しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多くの人数で行えるレクリエーションを取り入れ、声掛けをして参加していただいている。利用者様同士でお互いに声掛けされて、参加いただく場面も数多くあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のお見舞いや、ご家族の方が相談の連絡をよこされた時など対応し、交流が断ち切れないよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	毎日の生活の中での不満や希望など伺い、ご本人の意向に沿った支援を行うには、どうしたらいいのか職員間で話し合い、できる事は受け入れ、困難な場合はご家族や本人と相談をしながら、できるだけ歩み寄るよう心掛けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの職歴や生活状況など、ご本人やご家族の方などからお聞きし、ホームでの生活に結びつくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録、食事量、水分量、排泄状況を記録し、ひとりひとりの状態を把握する事に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週ミーティングを行い、ひとりひとりの体調や生活状況などについて問題点があれば話し合いをし、意見を出し合い統一した支援ができるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化に気づいたら、その都度職員全員が共有し、その状態にあった対応を考えていくようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の方からの要望事項があれば、職員全員が統一した支援ができるように話し合いをしたり、申し送りの徹底に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1年を通して、時期的に沿ったボランティアの方の参加や行事の施行が、恒例になってきていると共に、内容も多彩になって来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方全員が、かかりつけの医師があり、定期的に受診ができる体制を行っていると共に、医師、ご家族、職員と連携を密に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時はもちろんの事、利用者の方の異変に気づいたときは、看護師に連絡し、指示を頂くと共に、実際に対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞い時や、医療相談室等からの情報をお聞きすると共に、ご家族の方の意見、要望を聞きながら、方針を決めるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	生活を支援する中で、医療の部分が必要となる場合は特に早い段階で医師、ご家族、施設職員の間で話し合いをし、ご本人様が1番安全に生活できることを重要視し、方針を決めるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命士を施設に来ていただき、講習会を実施したり、年2回の防災訓練に実施時に必要な知識を習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の参加による避難・誘導訓練を消防署職員立会いのもと実施し、移動の方法、注意事項を勉強すると共に、地域の方の緊急時の協力体制をお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内容によっては、居室内で個人的に話し合いをするなど、プライバシーを守りつつ、人格を尊重し対応させていただいている。 利用者の方の間で居室をまちがって入室される事があった場合は、相互間で誤解がないようにお話をして、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が表現できるような環境づくりに心掛けて居るとともに、すべてを支援するのではなく、ご本人が自己決定できるよう語りかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	機能維持に心配りし、時間がかかっても自分でできる事は自分でできるよう励ましながら、見守りを行っています。又その日のやりたいことについては、業務に支障の無い範囲で、個人の要望にお答えできるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔後のお手入れや、洋服選びを一緒に行い、鏡を見て頂くなどして、その日の始まりが気持ちよいスタートであるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	ホームで栽培した野菜を一緒に収穫したり、調理のお手伝いをさせていただいたり、役割と楽しみを持ち、食事の際はできるだけ会話しながら楽しい雰囲気の中で召し上がっていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	減塩、水分制限、カロリー制限と医師より指示のある方がいますので、それぞれに指示のもと摂取していただいている。又、献立については、野菜食を中心にバランスのよいものを提供差し上げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の口腔ケア、就寝前の口腔ケアについては、特に注意し声掛けをおこなっているとともに、食後の口すすぎの声掛けも行っている。又、入歯の方については、ポリドントを使用し衛生面にも注意をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方でも定期的に声掛けを行ったり、夜間は失禁されないよう声掛け、誘導を行っている。又排泄のチェックを行い、時間帯、回数把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事については、野菜食を中心とし、繊維質のものを多く摂取していただいている。又運動については、毎日20分の軽体操を取り入れて適度に体を動かしていただいている。便秘症の方については、医師の指示のもと便秘薬の服薬支援を行うと共に、状態の把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を基本にしている。又、その日によっては異なりますが、希望の時間帯で入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜を問わず居室にいらっしゃる利用者の方に訪室し、部屋の温度や体調の観察を行うなど、安心して休んでいただける環境づくりに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局よりの説明書の注意書を熟読するとともに、専門書も常備し勉強に努め、安全な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、清掃、食事の準備の手伝いなど、出来る事の範囲内で役割を持ち、張り合いのある生活をしていただいている。又、合唱、散歩、ドライブを実施し、楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1階2階の職員を問わず、職員全体で一致協力して希望に沿った外出ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所有する事を希望する利用者の方には、紛失することのないよう支援しながら、希望にそえられるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば施設の電話を使用いただき、連絡をしたり、お話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清掃は毎日実施している。季節に応じた飾り付けをしたり、心地よい音楽を流したりと、落ち着ける空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カラオケをしたり、ゲームをしたり、作り物したりと要点に応じそれぞれが自由に移動され、使用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	居室には利用者の方が今までずっと使用してきた馴染みの家具や物を設置できるように配慮すると共に、危険の無い、安心して過ごせる空間作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場には場所がわかるように掲示している。又、自分のお部屋がわからなくなる利用者の方の部屋の入り口のところには、飾り物をつけるなどの配慮をしています。		